

## 12月6日大阪市会「都市経済委員会」傍聴

昨日6日13時から開催された大阪市会・都市経済委員会を傍聴した。11月21日に提出した夢洲万博とIRカジノに関する私の陳情書が審査されるからだ。委員会は付託案件の審査から始まり、大阪市博物館機構に係る第2期中期目標の制定、スポーツ施設の指定管理者の指定について質疑が行われた。施設の老朽化と業務委託、指定管理者制度、中之島美術館などについて質疑。大阪市の文化芸術行政の問題点に対する批判も。

続いて陳情書の審査に移り、万博推進局理事が万博中止・延期、公聴会開催、会場建設費上振れなどに対し、従来通りの見解を表明。IR推進局長が万博開催時のIR工事、実施協定などの情報公開について、IR整備法に基づき骨子を公開しているなど見解を表明。私の陳情書で実施協定など契約文書の全面公開を求めたので、拍子抜けの見解表明に声を上げそうになった。

質疑では参考になることも多かった。維新委員が液状化対策工事について質問すると、IR事業者の解除権失効後に支払う。液状化対策工事を含めて、IR関連の工事車両についてシミュレーションしている。維新委員は万博費用が増えるような報道が目につくが、市として費用の全体像を示すよう要求。万博報道にケチをつける発言に注目。

公明委員は11月23日の優勝パレードのボランティアト動員を批判し、IR工事を万博終了後まで延期することを求めた。これに対して横山市長は、万博とIRはともに重要であり、各々が成り立つように適切に調整すると答弁。万博費用の上振れとともに、万博工事の遅れについても楽観視している。

自民委員は2020年12月の万博基本計画の資金計画をもとに、万博運営費が809億円で収まるのかと問題を投げかける。会場建設費だけでなく、入場料などで賄う運営費についても精査していく必要がある。

写真は建設局が10月に公表した「万博工事期間中における工事車両の影響検討について」の咲洲トンネル西交差点。工事期間中の交通円滑化対策として、交差点の信号秒数を調整するなどの対策がとられたという。自民委員は対策後でも、万博開催中は6000台を超える見込みであり、交通容量は限界に近いのではないかと質問。咲洲庁舎43階から夢洲を眺めていても、トンネル付近の渋滞が目についた。建設局の資料については、またレポートしたい。



傍聴してから3時間余り経ち、質疑の途中で退席した。陳情書の審査が気になったが、「傍聴仲間」が知らせてくれた。私の陳情第180号「夢洲IRカジノ実施協定等を全面公開して慎重審議を求める陳情書」は引き続き審査、第181号「大阪・関西万博の規模縮小・コスト削減・競合するIR工事中止を求める陳情書」は不採択とのことだった。

(2023年12月7日)